

宮崎県立美術館は、現在約4,200点の作品を収蔵しています。これらは、次の3つの収集方針に基づいて収集されています。

1. 郷土出身作家及び本県にゆかりのある作品、2. わが国の美術の流れを展望するにふさわしい作品、3. 海外のすぐれた作品
- ここでは、当館のコレクションを代表する国内外の名品を展示しています。今回は、作家独自の形態の表し方に注目しています。複数の視点で対象をとらえ、同一画面上に再構成したパブロ・ピカソの「肘かけ椅子のベルベット帽の女と鳩」、形を考えることから制作を始め、ユーモラスな形を描いた元永定正の「ぎぎぎぎのなかのきいろ」などを紹介しています。
- また、昨年度に挿画本を新収蔵したアンドレ・マッソンの作品を初公開します。国内外の名品とあわせてお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	上田 桑鳩	1899~1968	『恐怖』幽	1957 (昭和32)	53.8×75.3	書
2	長谷川 三郎	1906~1957	交響詩霽日	1951 (昭和26)	137.1×266.9	木版
3	堅山 南風	1887~1980	武者小路先生	1955 (昭和30)	131.5×92.3	水墨
4	菅井 汲	1919~1996	NAMI	1960 (昭和35)	128.9×96.3	油彩
5	坂本 善三	1911~1987	作品B	1967 (昭和42)	165.0×137.2	油彩
6	村井 正誠	1905~1999	風の人	1968 (昭和43)	162.2×130.6	油彩
7	元永 定正	1922~2011	ぎぎぎぎのなかのきいろ	1986 (昭和61)	65.0×46.0	シルクスクリーン
8	アンドレ・マッソン	1896~1987	『おお シジュウカラ、おお おそらく』	1975	16.2×11.0	エッチング
9	アンドレ・マッソン	1896~1987	雷雨	1938	46.2×55.0	油彩
10	アンドレ・マッソン	1896~1987	庭師	1930	100.0×73.0	油彩
11	パウル・クレー	1879~1940	歩く女	1940	74.3×14.1	油彩
12	パブロ・ピカソ	1881~1973	肘かけ椅子のベルベット帽の女と鳩	1915-16	81.7×66.0	油彩
13	ロベルト・マッタ	1911~2002	吸引の芽	1954	204.4×208.0	油彩
14	ヴィフレド・ラム	1902~1982	秘密の儀式	1950	152.8×106.8	油彩
15	ヴォルス	1913~1951	無題	1945	24.3×16.2	水彩
16	ヴォルス	1913~1951	枝と化する女体	1944	15.8×10.1	水彩

ここでは、宮崎県ゆかりの作家の作品を紹介します。中でも、宮崎県を代表する4名の作家は、年間を通して展示しています。日本画家では、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門と、秀麗な美人画で広く知られていた益田玉城が挙げられます。一方洋画家では、塩月桃甫が台湾で美術の振興に努めるとともに、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追求しました。また、力強い筆遣いで生命力あふれる女性像を描いた山田新一は中央画壇で活躍しました。今回は、山内多門や山田新一をはじめとする郷土作家の作品とともに、昨年度新たに収蔵した根井南華の日本画を、資料と併せて紹介します。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	黒木 貞雄	1908~1984	暁曇仙境	1972 (昭和47)	42.2×63.0	木版
2	黒木 貞雄	1908~1984	三羽の鳥	1956 (昭和31)	37.2×51.5	木版
3	塩月 桃甫	1886~1954	浅ヶ部岩戸神楽之家	1940-44 (昭和15-19) 頃	27.2×38.6	水彩
4	塩月 桃甫	1886~1954	題不明	1926 (昭和元)	39.4×28.5	水彩
5	塩月 桃甫	1886~1954	桃	1949 (昭和24)	24.2×33.3	油彩
6	塩月 桃甫	1886~1954	婦人像	1953 (昭和28)	45.7×38.0	油彩
7	山田 新一	1899~1991	婦人像	不明	41.1×32.0	油彩
8	山田 新一	1899~1991	マルセーユ	1965 (昭和40)	130.2×97.0	油彩
9	古川 重明	1901~1956	人物 (読書)	1952 (昭和27)	56.4×37.7	水彩
10	吉田 敏	1915~1965	白い船	1959 (昭和34)	64.8×99.0	水彩
11	益田 玉城	1881~1955	落椿之図	1909 (明治42) 頃	199.5×70.3	日本画
12	山内 多門	1878~1932	鬪鶏図	1901 (明治34)	120.4×207.6	日本画
13	鈴木 月谷	1835~1907	浅峯山水図	1893 (明治26)	131.4×62.0	日本画
14	佐藤 小臈	1860~1928	白雲紅樹	1916 (大正5)	116.1×41.7	日本画
15	小泉 二山	1858~1936	山水図	1930 (昭和5)	132.1×43.6	日本画
16	根井 南華	1883~1960	緑竹君子	1906 (明治39)	135.4×33.8	水墨
17	根井 南華	1883~1960	老幹奇態	1906 (明治39)	130.6×33.2	日本画
18	根井 南華	1883~1960	松鶴図	1912 (大正元)	132.0×56.0	日本画
19	根井 南華	1883~1960	天地玉清境図	1924 (大正13)	136.8×54.0	日本画
20	根井 南華	1883~1960	矢研之滝	1937 (昭和12)	136.6×33.9	日本画
21	根井 南華	1883~1960	浅水蘆花図	1950 (昭和25)	131.0×57.6	日本画
22	根井 南華	1883~1960	冠岳雅観	1954 (昭和29)	131.9×60.0	日本画
23	根井 南華	1883~1960	風洩松聲静図	1954 (昭和29)	131.7×53.0	水墨

ジャン・アルプ（1886-1966）は、幼い頃から音楽や文学、美術に親しみ、画家や彫刻家のみならず詩人としても、その才能を幅広く発揮しました。

アルプは、当時ドイツ領であったフランスのストラズブールに生まれますが、第一次世界大戦の戦禍を避けるためにスイスに住まいを変え、1916年、ダダイズム*に参加しました。その後、卵や木の葉、目玉を連想させるような、独特の抽象造形を発展させていきます。アルプが本格的に彫刻の制作を始めたのは1930年、44歳の時です。ブロンズで作られた「視聴覚の形態」は、なめらかな曲線と磨かれた金属の質感が際立っています。また、晩年に制作された「たがをはめ直された太陽」は自作の詩と木版画20点からなる詩画集に、そのうちの15点を和紙に刷った版画をセットにしたものです。

アルプが生み出す、抽象的でありながら人体や植物の形をイメージさせ、見る者にどこか親しみを感じさせる世界をお楽しみください。

※あらゆる権威や既存概念に抵抗し、芸術そのものまで否定しようとした運動。先入観や理性にとらわれない制作や既製品の使用などは、後の作家に大きな影響を与えました。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法・素材
1	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	37.5×23.2	木版
2	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	35.5×33.2	木版
3	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	30.6×19.5	木版
4	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	34.5×32.7	木版
5	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	29.8×28.1	木版
6	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	34.5×32.7	木版
7	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	30.4×24.1	木版
8	ジャン・アルプ	1886~1966	視聴覚の形態	1942	33.5×19.5×18.5	ブロンズ
9	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	21.1×20.4	木版
10	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	19.1×18.1	木版
11	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	16.1×15.0	木版
12	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	31.5×31.2	木版
13	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	27.0×21.3	木版
14	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	34.8×34.2	木版
15	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	25.5×22.1	木版
16	ジャン・アルプ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	35.2×34.4	木版

宮崎県出身の画家・瑛九にとって、1957年はその画業の上で最も大きな転機を迎えた年です。創設に関わり、中心となって活動していたデモクラート美術家協会が解散し、これを機に美術団体等での活動に区切りを付け、自身の制作に集中するようになったのです。

瑛九はこの年の1月には、油彩などでエアークンプレッサーを用いるようになりました。型紙を使い、フォト・デッサンと同じような構成の作品も制作しました。作風もこの時期から変化が見られるようになり、碁石のような小さい丸を画面にちりばめたものや、幾重にも重なる円の中に、多数の小さな丸が描かれたものなど、点描へのアプローチが始まります。また、油彩のみならず、リトグラフや水彩、フォト・デッサンなど様々な技法においても、点描表現を取り入れるようになりました。最晩年の点描作品を描く起点となった年とも言えます。

ここでは、瑛九にとって特別な年と言える1957年に制作された作品を、資料とともに紹介します。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	瑛九	1911~1960	ともしび	1957 (昭和32)	53.5×40.8	リトグラフ
2	瑛九	1911~1960	虫の生活	1957 (昭和32)	38.1×25.0	リトグラフ
3	瑛九	1911~1960	舞踏会の夜	1957 (昭和32)	35.2×23.5	リトグラフ
4	瑛九	1911~1960	白い丸	1957 (昭和32)	34.9×21.9	リトグラフ
5	瑛九	1911~1960	街の灯	1957 (昭和32)	53.3×65.5	油彩
6	瑛九	1911~1960	青のれいめい	1957 (昭和32)	33.4×45.5	油彩
7	瑛九	1911~1960	花火C	1957 (昭和32)	45.5×53.1	油彩
8	瑛九	1911~1960	ながれ	1957 (昭和32)	64.8×91.2	油彩
9	瑛九	1911~1960	籠目の青	1957 (昭和32)	72.9×53.3	油彩
10	瑛九	1911~1960	みづうみ	1957 (昭和32)	91.3×116.3	油彩
11	瑛九	1911~1960	空の目	1957 (昭和32)	72.7×60.9	油彩
12	瑛九	1911~1960	作品	1957 (昭和32) 頃	22.2×16.1	油彩
13	瑛九	1911~1960	題不明	1957 (昭和32)	31.9×41.4	エアブラシ
14	瑛九	1911~1960	森の中	1957 (昭和32)	44.3×51.7	エアブラシ
15	瑛九	1911~1960	愛の歌	1957 (昭和32)	79.8×65.4	エアブラシ
16	瑛九	1911~1960	月	1957 (昭和32)	162.2×130.5	油彩, エアブラシ
17	瑛九	1911~1960	ビルの窓	1957 (昭和32)	91.2×72.6	油彩
18	瑛九	1911~1960	水の面	1957 (昭和32)	45.4×38.0	エアブラシ, 油彩
19	瑛九	1911~1960	雲	1957 (昭和32)	36.2×52.3	リトグラフ

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
20	瑛九	1911~1960	ピエロ	1957 (昭和32)	40.1×25.9	リトグラフ
21	瑛九	1911~1960	渡り鳥	1957 (昭和32)	37.9×23.4	リトグラフ
22	瑛九	1911~1960	赤と黒	1957 (昭和32)	37.8×23.8	リトグラフ
23	瑛九	1911~1960	鐘のひびき	1957 (昭和32)	38.3×25.0	リトグラフ
24	瑛九	1911~1960	ちりばめる	1957 (昭和32)	36.1×21.4	リトグラフ
25	瑛九	1911~1960	目	1957 (昭和32)	18.0×11.7	エッチング
26	瑛九	1911~1960	雲	1957 (昭和32)	17.8×12.6	エッチング
27	瑛九	1911~1960	題不明	1957 (昭和32)	40.5×29.6	水彩